参考資料１

第３回建設検討委員会資料　用語集

該当資料	用語	用語の説明
資料２	実稼働率	年間 365 日のうち、実際に施設が稼働する計画日数の割合を表す。
資料２、３、５	破砕残渣	不燃・粗大ごみ処理施設で燃やさないごみや粗大ごみを破砕処理し、金属等の有価物を選別回収したあとに残った残渣のこと。
資料２、３、５	処理残渣	プラスチック類処理施設での選別処理後に生じる残渣（朝霞市では、軟質プラスチック、硬質プラスチック、残渣ペットボトル、和光市ではその他プラスチックが該当）のこと。
資料２、３	ごみ質	ごみの性質を表す指標のことで、「単位体積重量」、「三成分値」、「低位発熱量」、「種類組成」、「元素組成」を総称している。
資料２、３	低位発熱量	ごみが燃える際に発生する熱量のうち、ごみ中に存在する水分の蒸発による熱量を除いた発熱量のこと。ごみ焼却施設の設計に影響する指標となる。
資料２	ユニバーサルデザイン	施設を利用する全ての人が利用しやすいようなデザインをするという考え方のこと。
資料３	単位体積重量	ごみ 1m^3 あたりの重量を表す。
資料３	三成分値	ごみを乾燥させて軽くなった部分の重量が水分、燃焼させて軽くなった部分の重量が可燃分、燃焼後に残った部分の重量が灰分とし、ごみの組成を表す。
資料５	性能発注 （⇔仕様発注）	設計から建設、運営に至るまでの仕様を事細かに規定するのではなく、達成すべき要求水準や性能を規定し、これらを達成するための手順や方法等については事業者の自由裁量に任せる発注方法のこと。 民間事業者の経営ノウハウや技術力を活かした創意工夫が発揮しやすいといったメリットがある。
資料５	スラグ、メタル	焼却施設でごみを焼却処理した後に排出される焼却灰を 1,300℃以上の高温で溶融し、固化した固形物のうち、磁石につかないもの（スラグ）とつくもの（メタル）に分かれる。
資料６	ボイラー・タービン式発電設備	ごみの焼却処理によって発生した熱を用いて、ボイラにて蒸気を発生させ、その上記によってタービンを回転させ発電する設備のこと。
資料６	SPC	Special Purpose Company の略称で、本事業の場合、ごみ広域処理施設の運営等の事業のみを行うことを目的として設立された特別目的会社を指す。